平成３０年９月１１日

松本市議会
　議長　上條　俊道　様

松本市議会教育民生委員会
委員長　阿部　功祐

教育民生委員会行政視察報告書

教育民生委員会行政視察を実施しましたので、その概要について報告します。

記

１　期　日
　平成３０年７月２５日（水）～２７日（金）　３日間

２　参加者
　教育民生委員８人、関係理事者２人、事務局随行１人　　計１１人

３　視察先及び調査項目
⑴　三鷹市
　　コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育について
⑵　川崎市
　ア　川崎市子ども夢パークについて
　イ　かわさき宙と緑の科学館について
⑶　足立区
　　子どもの貧困対策について

４　概　要
⑴　三鷹市
　　日　時　７月２５日（水）１３時３０分～１５時３０分
　　対応者　三鷹市教育委員会　指導課　教育施策担当課長　福島　健明課長

　ア　事業の背景・概要・課題等
　　全国的に、中１ギャップ、不登校、無気力化が社会問題化され、三鷹市においても一手を打たなければと、コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育を進めていこうとして、平成 15 年に保護者、地域住民に説明会を実施したが理解を得られず、白紙となった。理由しては小学生が中学校へ行って授業を

受けるなどダイナミックな構想に対する不安感や校舎の違う小中一貫という形が目に見えない状況などから受け入れてもらえなかった。そこで、白紙に戻したことで時間をかけて修正、丁寧な説明を行い合意形成を図り、平成 18 年に「にしみたか学園」を開園した。その後、他 6 学園について、準備が出来たところから開園していった。

小学校 15 校、中学校 7 校があり、7 中学校を校区として、それぞれを学園と称している。平成 18 年以降、平成 20 年に 3 校、平成 21 年に 3 校がそれぞれ開設された。

三鷹市の学校教育理念の中に、地域全体で共に子どもを育てるとあり、このことは地域の方にも意識していただき、地域で子どもを育てるところを大前提として進めている。

そして、三鷹市教育ビジョン 2022 に示している、人間力・社会力の 2 本柱で進めている。人間力では基礎学力、社会力ではコミュニケーション力として人に対しての気づき、思いやりをそれぞれ主に捉えて進めている。また、5 つの施策目標の中で、特に、学校は義務教育 9 年間の学びと 15 歳の姿に責任を持つというところと、学校を核としたコミュニティスクール、コミュニティの創造の特にこの 2 点から学校は地域のものという意識が強い。

学校運営協議会を設置して、国のコミュニティスクール事業の認定を受けている。

委員は任期 2 年、4 任期まで継続可能。学校運営の参画、教育活動への参画の 2 つの機能を持つ。学校運営協議会が基本方針を承認して、学校と地域が目標やビジョンを共有する。

教育ボランティアではゲストティーチャー、学習アシスタントがある。教員と連携して授業や児童・生徒の個別支援、校外学習の付添い、家庭科の手伝い、放課後の補修、など行っている。

学習支援ボランティアの参加延べ数は増加傾向。

コミュニティスクール委員会は、全体会を月 1 回、部会は月 1 ～2 回開催している。

メンバーは 30 名以内、保護者、地域協力者、学識経験者、など多種多様。部会は、支援部、広報部、評価部がある。

支援部では、学園の教育活動への保護者・地域人財の積極的な参画促進に関する活動を行っている。広報部は広く活動周知を行い、人財発掘へもつなげている。評価部は、運営評価をして翌年度へ活かしていくまとめを行う。

コミュニティスクールを基盤に、小 6～中 1 までの段差をなだらかにするため、小中一貫教育を行っている。小・中学校の教員が徹底して協働し、児童・生徒の発達段階に即した学びの連続性と系統性を保障して、9 年間の学びを見通して取り組んでいる。

9年間の学びのあり方を、小中学校の教師で学園研究会を行い、カリキュラムの検証授業を月1回行う。学園ごとに教科はちがうが相互乗り入れ授業がある。

高学年では教科担任制の授業の実施しているが、学級崩壊を防ぐ取り組みにもつながっている。

コミュニティスクールの成果として、このように小中学校の授業交流が、児童生徒に安心感をもたらし、学習意欲につながり、児童には中学校へのあこがれと期待を、そして、生徒には自己有用感を持たせることが出来た。また、保護者、地域の方では、学校への理解が進み、学校の見える化が進み、教育活動への協力体制が広がった。

イ　所感

コミュニティスクール事業の実施で、学校運営協議会を設置し、学校の基本方針を承認して、互いに共有して取り組んでいる点は今後の取り組みに参考となった。

三鷹市のコミュニティスクール事業は学習支援を主として、地域の方々の支援があると感じた。

小中一貫教育については、先生の相互乗り入れによって、小学校から中学校への段差の解消、中一ギャップへの効果があることが成果としてあった。

コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育の取り組みが学力向上の成果が出てきていることが分かった。

⑵　川崎市

ア　川崎市子ども夢パーク

日　時　７月２６日（木）１０時３０分～１２時

対応者　西野博之氏

（ア）　事業の背景・概要・課題等

川崎市夢パークは、川崎市子どもの権利に関する条例を実現する施設。（川崎市子どもの権利に関する条例は平成13年4月施行）

夢パークは平成15年（2003年）7月オープン。その後、平成18年4月1日から、指定管理者制度が導入され、川崎市子ども夢パーク共同運営事業体が受託し管理運営を行っている。１期５年で現在３期目。

子どもの自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所として、①川崎市子どもの権利に関する条例を実現する場②使いながらつくり続けていく場③子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場④子どもが自由で安心していられる場⑤学校以外での育ち、学ぶ場⑥川崎市の子ど

もネットワークの拠点となる場⑦子どもたちが自分たちで動かしていく場、以上が基本理念となっている。

当初は、中高生の居場所づくりで作られたが、乳幼児親子の利用が急増傾向。

全国の学校の中での暴力行為が増えている中で、小学生の暴力行為が過去最高となっている。溜まってきたストレス、怒りを生徒間にぶつける。いじめは小学校で増加。特に２年生が最多。いじめの低年齢化。小学校低学年の児童がためているストレスへ光を当てていく必要がある。

子どもの自死も増えている。９月１日問題。年間で自死が多い日。夏休み明け。

ストレスをためる子どもたち（ネグレクトと過干渉)、自信がない子供たち（自己肯定感が低い)、完璧・正しさを求めすぎる家庭、などの子どもを取り巻く環境の中で、あそび場など子どもの居場所、子どもの SOS をキャッチできる大人の存在などが必要。

子ども夢パークは、子どもたちが安全に使用できる基本的なものだけが整備されており、子どもたちが施設を使いながら自分たちで創っていくことが出来る。開設１５年経過、累積利用者は１００万人超。

ストレスが溜まった子どもたちにどうやって発散させるか、やりたいことに挑戦できる環境づくり。けがと弁当自分持ち、自分の責任で自由に遊べる。危険を、見える危険、見えない危険に分けて対応している。自由な発想で自由に遊ぶ。

遊びと暮らしの主体を取り戻すことに取り組んでいる。昔は暮らしの中で役割を持ち自己肯定感が下がらなかった。暮らしの中から役割がなくなり自己肯定感も下がってきた。遊び道具は全部自分たち、子どもたちが作る。

安心して失敗できる環境づくりを大事にしている。失敗体験をしていないから打たれ弱くなる。できないことを受け入れる力も大事。

助けてを言葉にできない子どもから、大人たちが異変を発見するために、あそび場をつくり発見していく。

フリースペースえんは、公設民営で、様々な背景を持つ不登校児童・生徒の権利保障の場。不登校はダメではない。自己肯定感を育む居場所づくり。まったりと過ごす、何もしないことを保証する。否定しない。個別学習支援も行っている。

施設利用の子どもたちは学校出席扱いとなる。

（イ）　所感

子どもたちの溜めているストレスに光を当て、SOS をキャッチができる大

人の存在が大切であることを改めて感じた。そして、あそび場と大人との出会い、関わりが持てる場所の必要性を強く感じた。

フリースペースでは、将来的な社会的自立を目指し、それぞれの得意分野、やりたいことを尊重して、ありのままを受け止めることの大切を深く感じた。

イ　かわさき宙と緑の科学館

日　時　７月２７日（金）１０時３０分～１２時４５分

対応者　館長　五十嵐豊和氏、天文担当係長　弘田澄人氏、
管理担当係長　竹下研氏

（ア）　事業の背景・概要・課題等

名称は、川崎市青少年科学館、通称名が、かわさき宙と緑の科学館、愛称は公募により、サイエンスプリン。施設のある生田緑地の広さは東京ドーム 38 個分、来館者は年間 29 万人。

管理運営形態は指定管理を導入。しかし全面的ではなく、学芸業務は市直営。

基本理念を実現するために、開かれた博物館、体験する博物館、育む博物館、つなげる博物館の 4 つの基本方針を定めている。

展示は、自然展示、天文展示、科学展示。

自然展示は１階を中心に、川崎市の自然や生田緑地の地層、多摩川の上流から下流をテーマにしている。

天文展示は、プラネタリウム投影が中心だが、一部、太陽系、銀河系など宇宙の基礎的な内容を壁面展示でわかりやすく解説している。

科学展示は、常設展示はないが、科学実験教室や企業の研究成果の展示。そのほか、教育普及事業、調査研究事業、収集保存事業、ネットワーク事業がある。

プラネタリウム、MEGASTARⅢFusion は川崎市出身のプラネタリウムクリエイターの大平たかゆき氏がこの施設のために開発した最新鋭の機械を設置。番組は毎月話題を変えて生解説で投影している。星を映す光学式プラネタリウムと宇宙の映像を映すデジタルプラネタリウムを併用して、宇宙の様々な姿を投影している。

市民参加を積極的に進めている。子ども対象のプラネタリウムワークショップでは、子どもたちがプラネタリウムを実際に操作して、番組を作って解説をする事業。大人対象はプラネタリウム同好会という市民団体があり、番組制作し、年に何回か発表会の開催を行っている。

アストロテラスという天体観測室があり 4 台の望遠鏡が設置。天井はスライディング。

月に２回星を見る夕べという夜間の天体観測会を市民団体の支援により開催。昼間も晴れている時、明るい星や太陽の観測を行っている。

（イ）　所感

自然展示の生き物のブースで表はもちろん、横、裏と様々な角度から見ることが出来るように工夫を凝らした展示がされていた。

プラネタリウムはこの科学館のために開発された機材であるが、番組編成を毎月変更し、生解説といった点が多くの来館者が来る理由の一つであると思った。

また、市民とともにある科学館といった点で、こども、大人とも、番組制作、操作などを行ない、このような取り組みは大変参考となった。

科学館のある敷地はとても広く他の施設もあることに加えて、自然豊かで、広場など、外での活動ができる点特に印象深く感じた。

⑶　足立区

日　時　７月２６日（木）１４時３０分～１６時

対応者　政策経営部子どもの貧困対策総合事業調整担当課長　山根　晃　氏

ア　事業の背景・概要・課題等

根底にある共通の原因として、健康、治安、学力の経済的困窮から貧困の連鎖を断つことを目的として子ども支援に取り組んでいる。

経済的格差があっても、社会教育等の場から地域の大人との関わりがあると、岳両区、自己肯定感の向上につながっていくとの結果がある。

足立区では、児童扶養手当受給者数は、２５年間で約２倍に増加。就学援助率は全国平均の２倍以上。子育て中の所得が低い状況。

子どもの健康生活実態調査、基礎学力調査などを毎年実施。データを積み上げながら傾向をつかんでいる。

小学２年制の段階で基礎学力の定着度に差が出ている。就学前からすでに差が出ていると予想されるとのこと。

区内都立高校の中途退学者は減少傾向にあるが２３区内では突出して多い状況。

平成２６年度に貧困対策の本部を立ち上げ、子どもの貧困対策実施計画を策定。

健康・生活と教育・学びの２つを柱に計画の検討を行った。検討会議では学識経験者を招聘。

子どもの貧困を経済的な困窮でとらえず、社会的孤立や健康上の問題など成育環境全般にわたる複合的な課題と捉え、その解決や予防に取組むことが基本

理念の特徴的なところ。取り組み姿勢では、全庁的な取り組での連携体制や子どもの小さい時から手を打つこと、妊産婦期の教育といった早期のきめ細やかな施策の実施、就学援助を受けている子供へ寄り添い学習支援などを行なっている。

教育・学び、健康・生活、推進体制の充実をプロジェクトの３本柱としている。

SSW が足りない状況が課題。

子どもの居場所は地域包括で運営しているが、担い手の高齢化、同じ人が別々の施設を補っているなど、新しく施設を運営できる方の要請などが課題。ひとり親家庭に対する支援では、実態調査から、孤立しているところが多く、ダブルワークから子育てまで手が回らないことなど寄り添える相談事業を行っている。豆の木相談室を設けているが、月に一回は土曜開催。

評価は、１次では自己評価、２次は政策経営部、３次は学識経験者でそれぞれ行っている。

子どもの健康・生活実態調査を行っている。この調査から、経済的な要因だけではなく様々な相関関係が出ている。子どもが運動習慣・読書週間を身に着けることや、地域活動に積極的に参加することで、逆境を乗り越える力を延ばせる可能性が高くなるとの結果。

イ　所感

子どもを取り巻く環境や生活習慣を変えて行くことの中では、保護者への相談支援の充実、第３者の大人との関わり、子どもの居場所の充実、必要性を強く感じた。

特に子どもが親以外の第３者との関わり、地域活動への参加などから、自己肯定感、自己制御能力に対する良い結果があるという点に関心を持った。

5　各委員の報告書

別添のとおり

6　資　料

別添のとおり